





いました。現在は母親の友人から借金をしたり、親戚や近所の子どもの子育てシッターをしたりしてお小遣いをもらいながらやり繰りしているそうです。しかし、電気代を支払うことができず、4000ペソの未払いがあるため、近々電気を止められてしまうそうです。

アリスくんは19歳になりますが、高校11年生(日本では高校2年生)になります。彼の亡くなった父親が生前母子を日本に呼び寄せる予定だったそうで、JFCアリスは日本で勉強をさせるためフィリピンでの通学を辞めさせたそうです。しかし、来日することができず、学年を遅らせて学業を再開したそうです。フィリピンでは数年前から12年間の義務教育を実施しているのですが、アリスくんが通っていた公立バコオ高校には高校11年生と12年生が勉強する環境が揃っておらず、11年生と12年生は環境が整っている

私立高校に強制的に入らされることになりました。この場合、私立高校の学費は国が支払ってくれるため負担はありませんが、交通費、私立高校指定の制服、教科書、雑費などの支出は学生側が負担しなくてはなりません。現在、きょうだい達は、公立バコオ高校で勉強をしているので私立高校ほど支出はないそうですが、彼らが高校11年生になった時には、アリスくんと同じように私立高校に転入する必要があるため、今後の学校費用はかなりの高額になると予想されます。

母親は、従兄からの送金が近い将来打ち切られる可能性があるかと心配しています。彼は24歳になり、自分の家族を持つことも考えられ、今までのようにアリスくん家族の生活費をすべて負担することは難しいとのことでした。また、アリスくんは手に職をつけるため、2年間の専門学校に通うことを希望しています。フィリピンで職に就くためには、最低でも高校を卒業しておく必要があります。3人の子ども達に高校を卒業させ、経済的に自立させる経済能力は母親にはありません。

また、母親は50歳を過ぎ、体調を崩すことも多くなったそうです。しかし、安定した職に就けず社会保障システムや国民保険に加入していないため、大きな病気に罹ってしまうと十分な治療を受けることが難しくなります。実際に、母子達が病気に罹ると、近所にあるヘルスセンターで最低限の治療を受けているそうですが、それでも受診には300ペソかかるため家計に負担をかけるそうです。

アリスくんは、日本で働いている従兄のように自動車整備士として働いて家族を助けたい、今まで経済的に支えてくれた従兄へ恩返しをしたいと考えています。そのためにも、高校を卒業し、2年間の専門学校で勉強することを計画しています。このような大変な境遇の中でも、彼は将来の夢に向かって努力しています。そんな彼を奨学生として支援していきたいと思います。今後ともご支援よろしく願いいたします。

